



## 「基金」について

今回の東日本大震災は東北地方だけでなくこの千葉県においても甚大な被害をもたらしました。旭市においては、東北地方と変わらない規模での津波による被害を受けています。また浦安市、香取市、船橋市、千葉市等、液状化による被害を受けた地域もあり、その対策にそれぞれの自治体は大変苦慮しているところ です。

そんな中、6月9日の千葉日報にこんな記事が載りました。「財政力で自治体間格差」県内では液状化現象で約1万2千世帯が住宅被害を受けましたが、その支援策が自治体の財政力によって異なっているというのです。全国トップクラスの財政力を持つ浦安市は国や県の支援とは別に100万円を補助し、また船橋市も50万円を上限に補修費の半額を助成することを決めました。一方千葉市は「自治体に格差が出てはいけない」という理由で、また香取市は「支援はしたいが被害があまりにも多い」という理由でそれぞれ予算化を見送りました。

茂原市において、今回の震災での被害が少なかったことは本来に救いでした。なぜなら、私が引き継い

だ時点で、茂原市の財政調整基金は3億円の積立しかなかったからです。その後財政健全化に重点を置き、少しずつでも積み増ししたいとの思いでしたが、22年度末でやっと3億7千万円の基金です。ちなみに浦安市は21年度末で119億円、「支援はしたいが被害があまりにも多い」といった香取市でも29億円あると聞いています。お隣の大網白里町は21億円あるそうです。どうしてもっと出来るときに積んでおかなかつたのか大変疑問に思いますが、いまさら言っても仕方がありません。

先日、千葉財務事務所長（財務省）が指摘した茂原市の問題点は、「財政健全化」と「基金の積み増し」でした。「借金」を減らしながら「貯金」もする。大変難しい課題ですが、知恵を絞って、一歩ずつ進めていかななくてはなりません。不安になるようなことばかり書きましたが、実をいうと今、四苦八苦をして対策を考えています。国や県、日本経済など今後どのような展開がみられるのか、そういう不透明さもある中で、次号以降でぜひ明るい兆しを報告できればと思っています。